

米国経済に関する2つの重要な見解

作成者：Ritter Diaz、ビジネスコンサルタント
東京、2024年8月12日

先頃、JP モルガン・チェースのジェームズ・ダイモン CEO とバンク・オブ・アメリカのブライアン・モイニハン CEO は、雇用統計の下方修正や7月の米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ見送りを受けて行ったインタビューの中で、米国経済と景気後退の可能性について、それぞれの見解を述べました。

JP モルガン・チェース ジェームズ・ダイモン CEO

JP モルガン・チェースのジェームズ・ダイモン CEO は8月7日、CNBC のインタビューで、米国経済と景気後退の可能性についての自身の見解を語りました。

以下はその要点です：

ソフトランディングの可能性：ダイモン氏は、米国経済が「ソフトランディング」する可能性を35%から40%程度と見積もっている。「ソフトランディング」とは、大きな景気後退を引き起こすことなく、インフレ率が下がる程度の景気減速が起きるシナリオを指す。ダイモン氏によると、ソフトランディングよりも景気後退の方が発生の可能性が高いということになる。

景気後退リスクに対する見通しは変わらず：ダイモン氏の景気後退のリスクに対する見方は2月以来一貫している。同氏は、市場は景気後退回避について過度に楽観的であり、リスクは依然として大きいと考えている。

不確実性の要因：ダイモン氏は、地政学的緊張、住宅市場の問題、政府の財政赤字、財政支出、量的引き締め（連邦準備制度理事会（FRB）のバランスシートの縮小）、今後の選挙など、経済の不確実性を高めるさまざまな要因を挙げている。これらの要素は市場に変動性と予測不可能性をもたらし、経済の動向を予測することを困難にしている。

経済パフォーマンスと懸念：2022年以降、ダイモン氏が警告してきた「経済が『ハリケーン』に見舞われる」とは裏腹に、経済は同氏の予想以上に回復している。クレジットカードの債務不履行の増加など、緊張の兆候は見られるものの、同氏は米国が現在不況に陥っていないことを認めている。これは、ダイモン氏が慎重ではあるものの、現在の経済状況の強さも認識していることを示している。

FRB のインフレ目標への懐疑：ダイモン氏は、特にグリーン経済と軍事への将来的な支出が

予想されることから、連邦準備制度理事会がインフレ率を 2% の目標まで引き下げる能力に疑問を呈している。この懐疑論は、特定分野への政府支出などの外部要因によってインフレ率が適切な水準よりも高くなり、経済成長と物価安定を管理しようとする FRB の取り組みが複雑になる可能性があるという懸念を示している。

楽観論には注意が必要：ダイモン氏は景気後退の可能性に備えてはいるが、軽度または重度の景気後退の場合でも、米国経済はそれに耐えることができるとの楽観的な見方を崩していない。しかし、最も影響を受けるであろう人々、特に深刻な景気後退で職を失う可能性のある個人への懸念も表明している。これは、潜在的なリスクを認識すると同時に、経済の根底にある回復力を認識するという、バランスの取れた視点である。

要約：ジェームズ・ダイモンは米国経済に対して慎重なスタンスを維持しており、ソフトランディングよりも景気後退の可能性が高いとの見方を示しています。彼の見解は様々な経済的・地政学的要因によって形成されており、現在の経済の回復力を認めつつも、FRB が大きな困難に遭遇することなくインフレ目標を完全に達成する能力については懐疑的な姿勢を崩していません。

バンク・オブ・アメリカ ブライアン・モイニハン CEO

バンク・オブ・アメリカのブライアン・モイニハン CEO は 8 月 12 日、CBS のインタビューに応じ、アメリカ経済の現状と連邦準備制度理事会（FRB）の金利政策の将来見通しについて自身の見解を述べました。

以下はその要点です：

景気後退の見通し：モイニハン氏は、バンク・オブ・アメリカはアメリカ経済の景気後退を予測していないと指摘した。これは、景気後退が予想されていた前年からの大きな変化である。この見通しの変更は、インフレについての以前からある課題をよそに、経済の安定性に対する自信を示唆している。

ソフトランディング：モイニハン氏は、バイデン政権と連邦準備制度理事会（FRB）がとった措置が、ハード・リセッションを回避し、経済をソフトランディングへと導くことに成功したと述べている。

個人消費：モイニハン氏は、景気は減速しているが、個人消費は COVID-19 パンデミック以前の水準に近いと指摘した。しかし、個人消費の伸び率は大幅に低下しており、非常に好調だった前年に比べ 3% にまで落ち込んでいる。これは、まだ消費は継続しているものの、高金利

の圧力もあり、消費者がより慎重になっていることを示している。

金利と FRB の役割： モイニハン氏は、FRB が金利を上げすぎることには慎重で、景気をさらに減速させる可能性があることを強調した。同氏は、バンク・オブ・アメリカは FRB が今年 2 回利下げを行うと予測しており、これは経済状況の緩和に役立つだろうと述べた。また、2025 年にはさらに 4 回の利下げが予想されている。これらの利下げは、経済は安定しつつあるものの、均衡を保つためには FRB による継続的な調整が必要であることを示唆している。

要約：モイニハン氏のコメントは米国経済に対して慎重で楽観的な見方を反映しています。特に個人消費と高金利に課題が残るものの、最悪の事態は回避され、経済は徐々に正常な状態に戻りつつあり、この状況を支えるためには FRB のさらなる利下げが必要だとする立場をとっています。

訳：ディアス畑田 紋奈